

## 「u&amp;i」を活用して相手の気持ちを察する力を身に付ける

千葉市立小谷小学校 教諭 横山 亮一

## 小学校6年生 特別活動「u&amp;i」

## 【番組紹介・活用回】第0回「ちゃんとやって！」

「u&i」は発達障害などの困難がある子どもたちの特性を知ること、多様性への理解を深める子ども番組。メインパートは、子どもと妖精の対話劇。困難のある友達の“ココロの声”に耳を傾けながら、その悩みや特性を知り、どうしていくのがいいかを考える力を身に付けていく。

## 【授業の概要】

高学年らしく学級全体としてまとまった活動ができるようになり、他者の長所や短所なども相対的に捉えられるようになるとともに、目標を実現するために、互いに信頼し支え合って活動することを求めるようになってきた。本番組を活用することで日常の学級生活を見直す機会を設定した。

## 【授業デザイン】小学校6年生 学級活動

## 教材名：相手の気持ちを察する力を身に付けよう

## &lt;事前の活動&gt;

## ① 問題の発見・把握（番組視聴）

つかむ

## ・番組視聴

さぐる

## &lt;本時&gt;相手の気持ちを察する力を身に付けよう

## ① -2 問題の発見・把握

つかむ

## ・番組視聴（学級全員）

・番組内容と生活上の諸問題を照らし合わせながら課題を見だし、学級全員で課題を把握する。

## ② 解決方法等の話し合い

さぐる

見つける

・原因や改善の必要性を探ったり具体的な解決方法を見付けたりするために話し合う

## ③ 解決方法の決定

決める

・話し合いを生かして、自分に合った具体的な解決方法や個人目標を一人一人が意思決定する。

・意見の違いや多様性を認め合い、折り合いをつけて学級として合意形成を図る。

## &lt;事後の活動&gt;

実行する

## ④ 決めたことの実践

・意思決定した解決方法をもとに目標の実践に向けて、個人で実践し粘り強く努力する。

・互いのよさを生かして協働して実践する。

## ⑤ 振り返り

## 【今回の実践における番組効果】

- 1 未経験あるいは追体験の困難な事物や事象に対して、具体的な理解の手がかりを与える。
- 3 事象の関係、構造、過程などを要約した形で示し、事象の全体的な理解を容易にする。
- 5 日常的な事象に対して、新たな見方や感覚を与えて、課題を発見する。
- 6 課題解決のための手がかりを与える。
- 12 よりよいコミュニケーションのあり方を示し、学習者の対話による学びを促進する。

## 【授業デザインの工夫】

## ●授業前の説明・準備

子どもたちが安心して学習に取り組めるための環境づくり（保護者への説明、継続的な番組利用）

## ●事前視聴で課題を見いだす

学級の実態を踏まえ、本時でどのように進めていかアウトラインを相談し、本時の話し合いを円滑にできるようにする。

## ●考えを可視化し、実践へとつなげる

話し合いを通して考えた個人目標である意思決定を「宣言」という形で表明する。

「宣言」をクラス内で共有することで、実践につながるようにする。



## 【成果と課題】

本時の授業後に記述した子どもの感想からは、「一度相手の気持ちを考えて、自分だったらこうしてほしいなと考え、対応していきたい」「相手がどのような時に困っているのか見たり、考えたりする。困っている時にどのような行動をするのか、考えてみんなに声をかける」「みんながこのクラスで楽しいと思えるようなクラスにしていければよいと思う」など、相手の気持ちを察しようという具体的記述が見られた。教育的効果として「5 日常的な事象に対して、新たな見方や感覚を与えて、課題を発見する。」「6 課題解決のための手がかりを与える。」ことができたことが成果としてうかがえる。本実践を通して学級生活について深く考え、生活実践につなげようとする様子が見受けられた。